

148  
650

安息日學校叢書  
第一卷

博士フルベッキ氏序

# 安息日學校生徒心得

完

東京救世社出版

安息日學校叢書を發刊するの趣意

安息日學校教育は實に大切なるものなり。然るに我國に於ては未だ多く注意せられぬは残念の至り也。雅きものを尊びて之を侮るべからず。彼等は今幼しと雖も他日の成人也。成人は教へずんばあるべからず。此故に兒女又教ずんばあるべからず。人は神の子供也。雅きものは最も神に愛せるもの也。而して最も聖きものも雅きものと教育を怠るは即ち神の子供を侮るものなり。○安息日學校教育の傳道及び教會に大切なる關係を有する事ハ敢て共會及矯風會の如きものに劣らざるあり。○安息日學校の教育進歩せば小學德育に大なる影響を及ぼすべし。遂には我國小學德育は安息日學校教育の支配を以てするに至るべし。○此等の理由あるを以て今や我等は我國に於ける安息日學校問題を講明せずんばあるべからず。其教員に關するもの、其生徒に關するもの盡く講明せざるべからず。着々之れが進歩發達を謀らざるべからず。此れ余が安息日學校叢書と發刊するの趣意なりとぞ。

明治廿八年二月

PREFACE.

*A considerable amount of good Christian literature has been issued in recent years; there is, however, a lack of cheap, small books for the young scholars of Sunday Schools. Mr. H. Shimazaki intends now to supply this want. Although I have not seen the book to which this preface is to be prefixed, taking into consideration the highly commendable purpose of the author, I think I can safely recommend his work.*

G. F. Verbeck.

Tokyo,

January 30th, 1895.

安息日學校叢書を發刊するの趣意

安息日學校教育は實に大切なるものなり。然るに我國に於ては未だ多く注意せられぬは残念の至り也。雅きものを尊びて之を侮るべからず。彼等は今幼しと雖も他日の成人也。成人は教へずんばあるべからず。此故に見女又教ずんばあるべからず。人は神の子供也。雅きものは最も神に愛せるもの也。而して最も聖きものも雅きものと教育を怠るは即ち神の子供を侮るものなり。○安息日學校教育の傳道及び教會に大切なる關係を有する事ハ敢て其會及矯風會の如きものに劣らざるあり。○安息日學校の教育進歩せば小學德育に大なる影響を及ぼすべし。遂には我國小學德育は安息日學校教育の支配を以て至るべし。○此等の理由あるを以て今や我等は我國に於ける安息日學校問題を講明せずんばあるべからず。其教員に關するもの、其生徒に關するもの盡く講明せざるべからず。着々之れが進歩發達を謀らざるべからず。此れ余が安息日學校叢書を發刊するの趣意なりとぞ

明治廿八年二月

PREFACE.

*A considerable amount of good Christian literature has been issued in recent years; there is, however, a lack of cheap, small books for the young scholars of Sunday Schools. Mr. H. Shimannuki intends now to supply this want. Although I have not seen the book to which this preface is to be prefixed, taking into consideration the highly commendable purpose of the author, I think I can safely recommend his work.*

G. F. Verbeck.

Tokyo,

January 30th, 1895.

## 教師の告ぐ

基督教は繁文縟禮にあらず、然れども基督教倫理の主義と事實にあてはめて簡明に教ゆるは至つて必要の事とぞ、此書編述の一理由ここにあり」人の理性未だ發達せざる間は「これはすべからず」これけなすべし」と云ふ命令的の言葉と以て教ゆるをよしとす、其何故なるかを説明するは青年の時に於てすべし此書編述の一理由ここにあり」余の妄に禮式儀則を制して兒童を束縛せんとするを好まずされど兒童の行儀よがらざるかため我等が教ゆる事の無益に歸し或は彼等の行儀正しからざれば教ゆるべからざる個條あるを知る此書編述の一理由又ここにあり」

明治廿八年二月

編述者識るす、

(二)

## 安息日學校生徒心得

第一條安息日學校生徒たるものハ先づ第一に聖書の教を守らるべし

第二條安息日學校生徒たるものハ両親の言葉に從ふべし

第三條安息日學校生徒たるものハ教師の言葉に從ふべし

第四條安息日學校生徒たるものハ日曜日は聖日として之を守り必ず安息日學校に出席すべし

第五條安息日學校生徒たるものハ毎日の課業をバ心を盡して之をなすべし

第六條安息日學校生徒たるものハ朝夕と食事の時には必ず神に祈りと感謝とを捧ぐべし

(三)

(四)

第七條安息日學校生徒たるものハ心ざしもほかの人々よりすぐれてよからざるべからず

第八條安息日學校生徒たるものハ友達に信切を盡すべし  
決して弱きものなどを困らせぬ様ニ心掛くべし

第九條安息日學校生徒たるものハどんな事あつても腹を立つべからず

第十條安息日學校生徒たるものハほかの人々にすぐれて能く孝行すべし

第十一條安息日學校生徒たるものハどんな事あつても泣くべからず少しの事に泣く人は弱き人なり

第十二條安息日學校生徒たるものハ行儀作法に於てもほかの人々よりもすぐれざるべからず

(五)

第十三條安息日學校生徒たるものハ教場にあつては大人しく靜かにすべし

第十四條安息日學校生徒たるものハ教師の教ふる事を他見せず能く氣をつけてきくべし

第十五條安息日學校生徒たるものハ教へられたる事を能く覚えて歸るべし

第十六條安息日學校生徒たるものハ教へられたる事を覺ゆるのみならず直ちに之を行ん事を心掛くべし

第十七條安息日學校生徒たるものハ酒と煙草とを決してのむべからず

第十八條安息日學校生徒たるものハ犬や猫の様な生物をも能く親切に取扱ふべし

第十九條安息日學校生徒たるものハ友達を安息日學校に  
つれ來る様に心掛くべし

第二十條安息日學校生徒たるものハ小學校にあつても決  
してほかの生徒に劣るべからず

第二十一條安息日學校生徒たるものハ人と喧嘩口論すべか  
らず

第二十二條安息日學校生徒たるものハ惡しき汚らはしき書  
物を讀むべからず

第二十三條安息日學校生徒たるものハ人ハ惡口すべからず  
第二十四條安息日學校生徒たるものハ長者を崇ひ尊ぶべし

第二十五條安息日學校生徒たるものハ何處もありても讚美  
歌及唱歌の如きものハ外歌ふべからず

第二十六條安息日學校生徒たるものハ決して虚言をつくべ  
からず虚言は罪の始なり

第二十七條安息日學校生徒たるものハ金錢を無駄に使用す  
べからず

第二十八條安息日學校生徒たるものハ幾分でも傳道の爲に  
金錢を寄附する様よ心掛くべし

第二十九條安息日學校生徒たるものハ日曜の課業の後は病  
よある友達を見舞ひ或は友達に教を語るなど何で  
もよき事をなす様よ心掛くべし

第三十條安息日學校生徒たるものハ人と約束せし事を妄  
し破るべからず

第三十一條安息日學校生徒たるものハ芝居其ほか惡しき場

處しよよは近ちかよる事さへすべからず

第卅二條安息日學校生徒たるものへ教師きょうし祈いのる時は共ともに祈いのるべし決して騒さわがしくすべからず

第卅三條安息日學校生徒たるものへ聖書せいしよや「カード」などを成丈ちやう丁寧ていねいに取扱とりあつかふべし

第卅四條安息日學校生徒たるものへ手てよ垢あかをつけ又は鼻は汁あを垂たらすべからず

第卅五條安息日學校生徒たるものへ惡わるき人と交まじへからず  
第卅六條安息日學校生徒たるものへほろ衣裳いしやうを衣ぎても耻は

づべからず

第卅七條安息日學校生徒たるものへ兄弟喧嘩きやうていげんかすべからず  
兄あにと姉あねとを崇うやまひ弟あにと妹いもうととを愛あいして教おしふべし

明治二十八年二月二十一日印刷

定價二錢

明治二十八年二月二十五日發行

著者 嶋貫兵太夫

發行者 酒井勝軍

印刷者 田中金治郎

印刷所 芥信社

發行所 救世社

大賣捌所 警醒社書店

東京々橋區出雲町一番地

東京麴町區富士見町一丁目二十五番地

處しよよは近おちよる事さへすべからず

第卅二條安息日學校生徒たるものハ教師きょうし祈いのる時は共ともに祈いのるべし決して騷さわがしくすべからず

第卅三條安息日學校生徒たるものハ聖書せいしよや「カード」などを成丈ちやう丁寧ていねいに取扱とりあつかふべし

第卅四條安息日學校生徒たるものハ手てよ垢あかをつけ又は鼻は汁かを垂たらすべからず

第卅五條安息日學校生徒たるものハ惡わるき人と交まじはるべからず  
第卅六條安息日學校生徒たるものハほろ衣裳いしやうを衣きても耻は

づべからず

第卅七條安息日學校生徒たるものハ兄弟喧嘩きやうだいげんかすべからず  
兄あにと姉あねとを崇うやまひ弟あにがへと妹いもうととを愛あいして教おしふべし

明治二十八年二月二十一日印刷  
明治二十八年二月二十五日發行

定價二錢

著者 嶋貫兵太夫  
東京麴町區富士見町一丁目二十五番地

發行者 酒井勝軍  
東京麴町區平河町四丁目八番地

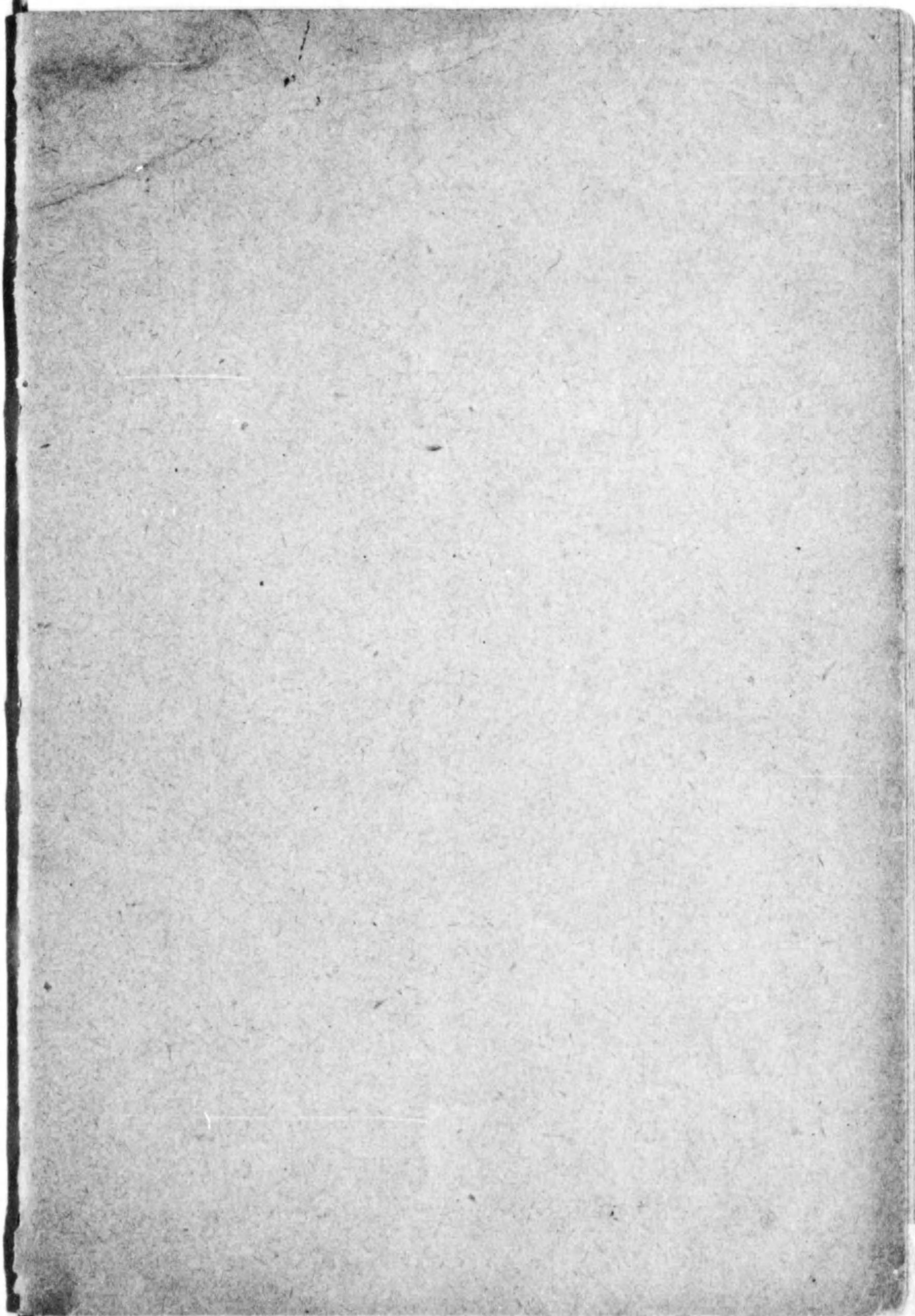
印刷者 田中金治郎  
東京麴町區麴町八丁目二十番地

印刷所 芥信社  
東京麴町區麴町八丁目二十番地

發行所 救世社  
東京麴町區富士見町一丁目二十五番地

大賣捌所 警醒社書店  
東京々橋區出雲町一番地





148  
650

安息日學校叢書  
第一卷

安息日學校生徒心得

ハルハツキ氏序

東京救世社出版

完

020218-000-6

特53-288

安息日學校生徒心得

嶋貫 兵太夫 / 著

M28

ABI-0020

